

高金利通貨およびオーストラリア・ドル、
ニュージーランド・ドル、カナダ・ドル、
ノルウェー・クローネ、インドネシア・ルピア、中国・人民元
マンスリー・レポート



ブラジル



メキシコ



トルコ



南アフリカ



オーストラリア



ニュージーランド



カナダ



ノルウェー



インドネシア

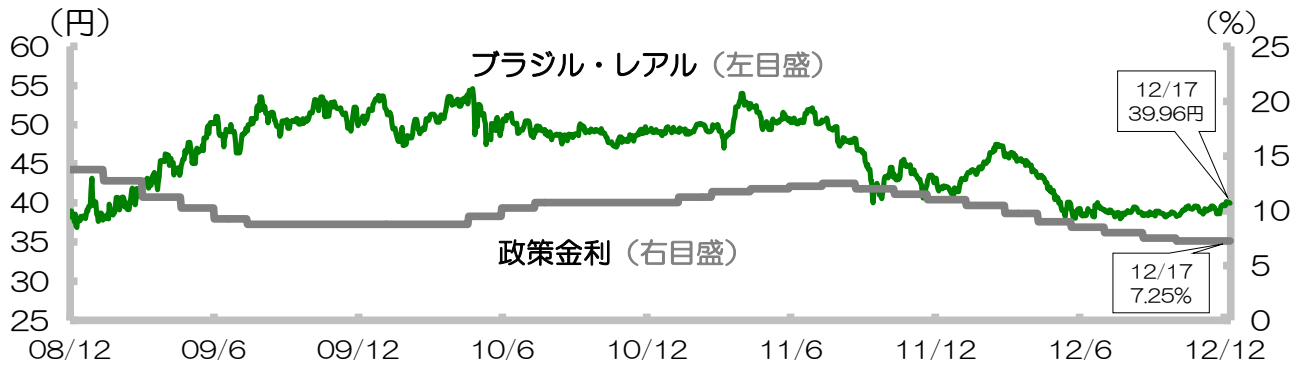


中国

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は信頼できると判断した情報にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



ブラジル



【足元の金融市場の動き】～ ブラジル・リアルは一時下落するも、自国通貨買い為替介入から反発～
 ブラジルでは7～9月期の実質GDP成長率が市場予想を下回る伸びにとどまったことに加え、11月の輸出も鈍化するなど依然として景気の減速が続いています。政策金利は、インフレに対する懸念もあり、11会合ぶりに据え置かれました。ブラジル・リアルは一時下落する場面がありましたが、政府・中央銀行による自国通貨買いの為替介入から反発しました。

【当面の金利・為替の見通し】～ ブラジル・リアルはレンジ内での動きか～
 景気については、減速が続いており実質GDPの先行指標である月次の経済活動指数の改善も遅れています。また利下げ余地を縮めるインフレはじり高となっています。一方で利下げ効果の浸透、通貨安による輸出増加期待、中国景気の下げ止まり観測が出ており、主要輸出品である鉄鉱石など資源価格への下落圧力の緩和なども予想されます。政策金利は当面据え置かれるとみています。ブラジル・リアルは、景気減速が続いており弱含みの展開が予想されますが、海外直接投資による資金流入が高水準を維持していること、下値では政府・中央銀行の自国通貨買い介入が予想されることからレンジ内での動きにとどまるとみています。



メキシコ



【足元の金融市場の動き】～ メキシコ・ペソは株高、良好な米国経済指標受け堅調に推移～
 メキシコでは自動車生産、販売、輸出とも好調で、製造業全体でも持ち直しがみられました。個人消費については、小売売上高、消費者信頼感などの指標にやや減速がみられました。政策金利は据え置かれました。メキシコ・ペソは株高や原油価格の下げ止まり、良好な米国経済指標等を受けて堅調に推移しました。

【当面の金利・為替の見通し】～ メキシコ・ペソは株高、証券投資資金の流入などから堅調か～
 景気については、自動車製造・輸出の増加基調が続いており、全体では緩やかな減速にとどまっています。また同国経済にとって重要な外貨収入の1つである、海外就労者による送金額については減少が続いていましたが、米国の雇用環境改善を受けて上向きつつあります。物価については中央銀行は年内に4%を下回るようになるかと予測しています。当面の政策金利については、中央銀行の利上げ姿勢が依然として強いとみられますが、米国の「財政の崖」、欧州債務問題など世界経済の先行き不透明感も残ることから据え置かれるとみられます。メキシコ・ペソは株高、証券投資資金の流入、良好な米国景気などから堅調に推移するとみています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



トルコ



【足元の金融市場の動き】～トルコ・リラは実質GDPへの失望から一時下げるも堅調を維持～

トルコでは政策金利は据え置かれましたが、上限金利である翌日物貸出金利は3カ月連続となる引き下げが行われました。7～9月期の実質GDP成長率は+1.6%（前年比）と市場予想を大幅に下回りました。トルコ・リラはGDP発表後に一時売られましたが、高値更新が続く株式市場への海外資金の流入などから上昇しました。

【当面の金利・為替の見通し】～トルコ・リラは利下げ観測はあるものの海外資金流入などから底堅い動きか～

景気については、GDPに加えて鉱工業生産やPMIなどの製造関連、消費者信頼感などの個人消費にも緩やかな減速がみられます。物価について中央銀行は年末にかけて落ち着くとみており、11月の消費者物価指数も落ち着いた動きとなりました。トルコでは、国債格付けの引き上げや株高を受けて先進国の量的金融緩和を背景とした海外からの証券投資資金の流入が活発化しています。国内景気の減速や通貨高もあり利下げ観測が高まっていますが、海外資金の流入に加え政府の財政緊縮継続も評価されていることから、トルコ・リラは底堅い動きを続けるとみています。



南アフリカ



【足元の金融市場の動き】～南アフリカ・ランドは堅調に推移～

南アフリカの政策金利は5.0%に据え置かれました。南アフリカ・ランドの対円での動きは、日本で衆議院解散が決まり、次期政権下で日銀が大胆な追加金融緩和を実施するとの見方が広がったことから上昇しました。その後は同国の経常赤字の金額が市場予想よりも小幅だったことに加えて、日本の衆議院選挙の接近とともに円安基調が鮮明となったこともあり、堅調に推移しました。

【当面の金利・為替の見通し】～南アフリカ・ランドはレンジ内での推移か～

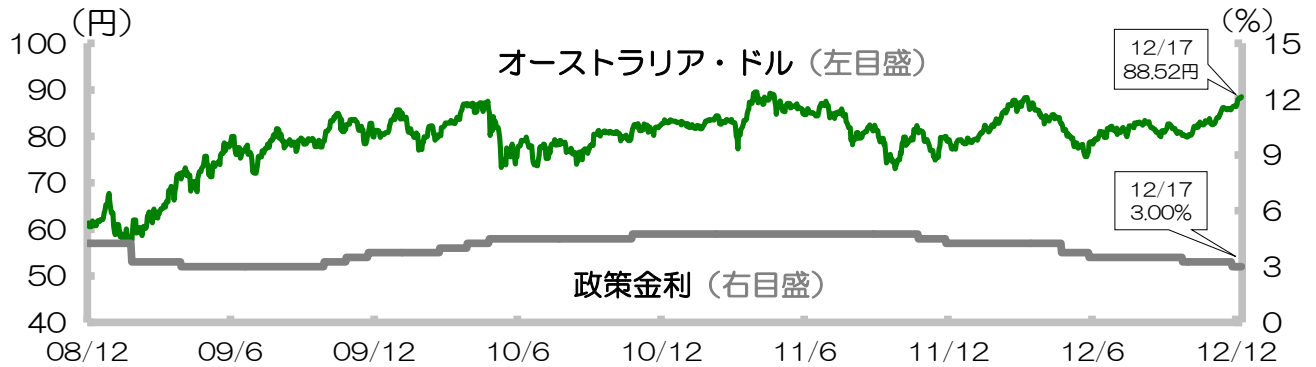
景気については、7～9月期実質GDP成長率が市場予想を下回り、小売売上高は減速していますが、製造業生産高が市場予想を上回り、長期化したストライキによる生産活動への影響が緩和しつつあることが確認されています。同国準備銀行は景気やインフレ動向を注視しながら、当面は政策金利を据え置くこととみられます。南アフリカ・ランドは、市場予想に対して一部良好な指標もありますが、依然として貿易・経常赤字に対する懸念は根強く、レンジ内で推移するとみています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



オーストラリア



【足元の金融市場の動き】～ オーストラリア・ドルは、中国景気の下げ止まり感から上昇～
 オーストラリアでは、7～9月期の実質GDP成長率は2四半期連続の減速となりました。また消費関連や企業景況感の悪化などやや弱い指標もみられました。こうした状況下、政策金利は0.25%引き下げられ、3.0%となりました。オーストラリア・ドルは中国景気の下げ止まり感がみられたことや欧州問題への懸念後退などから、上昇しました。

【当面の金利・為替の見通し】～ オーストラリア・ドルは利下げ後も投資対象としての魅力は高く堅調か～
 景気については、都市部・農村部住民の収入倍増計画を打ち出した中国の経済政策への期待、欧州の根強い追加金融緩和観測などから、輸出の増加が期待されます。さらには金融緩和の浸透による投資の回復も予想されます。オーストラリア・ドルについては、利下げ余地が残るとの見方もありますが、中国の景気底入れ観測が高まっていることや、先進国中心に低金利状態が続くとみられること、良好な財政状況を背景とする国債の高格付など、投資対象としての魅力は依然高く、堅調に推移するとみています。



ニュージーランド



【足元の金融市場の動き】～ ニュージーランド・ドルは内外の市場環境の改善から上昇～
 ニュージーランドでは、住宅関連指標や景況感指数などを中心に景気の底堅さがみられました。政策金利は据え置かれましたが、金融政策会合後の声明文で同国の経済成長が加速するとの見通しが示されました。ニュージーランド・ドルは、日銀の追加金融緩和観測を背景に為替市場が円安に推移したことに加えて、中国の景気回復期待や欧州債務問題の落ち着きなど外部環境の改善、国内では底堅い経済指標や中央銀行が景気に対して楽観的な見方を示したことなど良好な経済環境の中、上昇基調となりました。

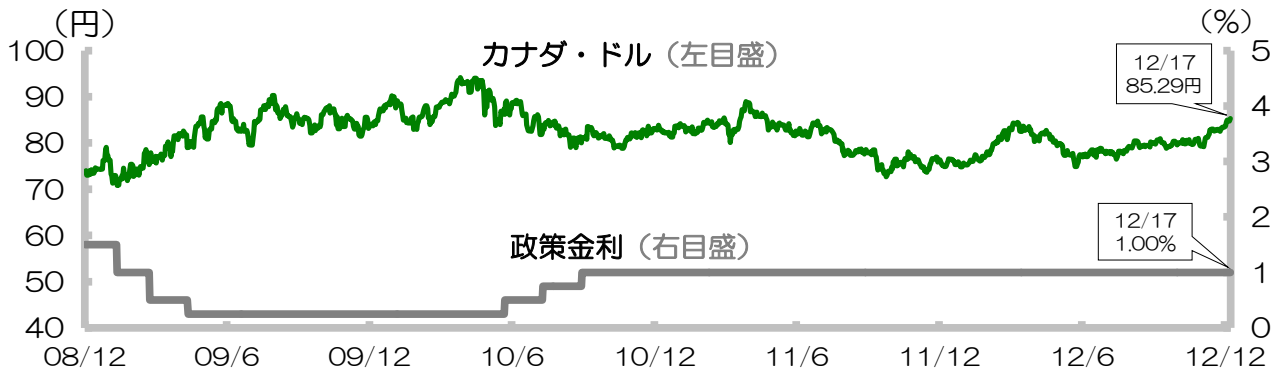
【当面の金利・為替の見通し】～ ニュージーランド・ドルは、投資のリスク回避姿勢の後退から底堅く推移か～
 景気については、低金利が下支えする住宅関連や復興需要を背景とした建設関連などが牽引役として期待されます。また、大手乳業会社が配当の増加見通しを示したことも明るい材料です。一方で緊縮財政による景気の下押しや、自国通貨高による国内産業への影響も懸念されます。政策金利は当面据え置かれるとみられます。ニュージーランド・ドルは、米国の「財政の崖」問題が懸念材料ですが、投資家のリスク回避姿勢が後退するなか相対的に金利水準が高いこともあり、底堅く推移するとみています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



カナダ



【足元の金融市場の動き】～カナダ・ドルは、外部環境の改善から上昇～

カナダでは、7～9月期の実質GDP成長率が+0.6%（前年比）と市場予想を下回りました。原油やガスなどの資源部門の輸出減少が経済成長率の下押し要因となりました。10月の消費者物価指数は+1.2%（前年比）となり、依然として低水準となっています。政策金利については据え置かれましたが、引き続き金融引き締めバイアスは維持されました。カナダ・ドルは、国内の経済指標にはやや軟調なものが目立ちましたが、外部環境の改善や中央銀行の金融引き締め姿勢の維持などが支援材料となり上昇しました。

【当面の金利・為替の見通し】～カナダ・ドルは米国や中国の景気回復期待から底堅く推移か～

景気については、今後も個人消費や企業投資などを中心に緩やかに回復していくとみられます。ただ、足元で好調だった住宅市場に陰りがみられることに加えて、外需の低迷や自国通貨高による輸出の鈍化が続いていることに対して懸念が残ります。政策金利については、自国通貨高による輸出への影響を懸念していることから外部環境を注視しつつ当面据え置かれるとみています。カナダ・ドルは、米国の「財政の崖」問題が懸念材料ですが、米国や中国の経済回復期待を背景に底堅く推移するとみています。



ノルウェー



【足元の金融市場の動き】～ノルウェー・クローネは堅調に推移～

ノルウェーの政策金利は1.50%に据え置かれています。ノルウェー・クローネの対円での動きは、7～9月期の実質GDP（石油および海運を除くメインランド）が市場予想を上回ったことに加え、日本では衆議院解散が決まり、次期政権下で日銀による大胆な追加金融緩和が実施されるとの見方が広がったことから上昇した後、衆議院総選挙の接近とともに円安基調がより鮮明となり堅調に推移しました。

【当面の金利・為替の見通し】～ノルウェー・クローネはレンジ内で強含みか～

景気については、PMI（製造業）が景気判断の分かれ目となる50を小幅ながら上回り、鉱工業生産が前月から改善するなど、緩やかな回復がみられます。同国中央銀行は、こうした景気動向を受けて現状の政策金利を当面維持するとみられます。ただし、上昇傾向にある住宅価格が懸念されており、利上げ観測につながる可能性があります。ノルウェー・クローネは、引き続き欧州景気の悪化の影響が懸念されますが、緩やかな景気回復傾向にあることや財政・経常収支が健全なことから、レンジ内で強含むとみています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



インドネシア



【足元の金融市場の動き】～ インドネシア・ルピアは、海外資金の流入などから底堅く推移～

インドネシアでは、11月の消費者物価指数(前年比)は+4.32%と前月から減速しました。10月の貿易統計では、輸出が引き続き悪化する一方、輸入が大幅に増加したことから、貿易収支は3カ月ぶりに赤字となりました。政策金利については、外部環境悪化による国内景気の下押し懸念が残る一方、本国通貨安に対する懸念も残ることから、据え置かれました。インドネシア・ルピアは、為替市場が円安に推移したことに加えて世界的な金融緩和や堅調な国内景気を背景とした海外資金の流入から、底堅く推移しました。

【当面の金利・為替の見通し】～ インドネシア・ルピアは、レンジ内での推移か～

景気については、海外景気の影響による輸出の鈍化がみられますが、国内では消費者信頼感指数が高水準を維持するなど、良好な個人消費や政府によるインフラ投資の拡大などが期待でき、内需を中心に堅調に推移するとみられます。政策金利については、国内景気への影響を配慮し据え置かれるとみられます。インドネシア・ルピアは、堅調な国内景気を背景に海外からの資金流入が期待される一方、経常赤字の高止まりに対する警戒感が残ることから、レンジ内で推移するとみています。



中国



【足元の金融市場の動き】～ 中国・人民元は中央銀行の介入に対する警戒感から上値は重い～

中国では、11月の製造業PMIが50.6となり、2カ月連続で景気判断の分かれ目となる50を上回りました。このほか、消費者物価指数については+2.0%(前年比)と落ち着きが見られ、鉱工業生産、小売売上高などの伸びも改善を示しました。中国・人民元は、国内の景気底打ち期待に加えて欧州債務問題に対する懸念の後退などから堅調に推移した後、中央銀行による本国通貨売り介入観測から上値が重くなりました。

【当面の金利・為替の見通し】～ 中国・人民元は通貨高に対する警戒感もありレンジ内での推移か～

景気については、ここ数カ月の主要な経済指標に改善がみられ、底打ち期待が高まってきました。ただ、11月には輸出の伸びが減速するなど依然として外需が低迷していることから、緩やかな回復にとどまるとみられます。また、中央経済工作会議では内需拡大が打ち出された一方、「積極的な財政政策と穏健な金融政策」という従来の方針に変更はなく、大規模な景気対策に対する期待は後退しました。中国・人民元は、海外資金の流入が期待される一方、中央銀行による為替介入に対する警戒感もあり、レンジ内で推移するとみています。

データ出所: Bloomberg, 目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。